



第2回東北被災地南三陸を訪ねお手玉交流 東京お手玉の会が5月につづき2度目の訪問

16カ所で心を伝え元気と笑顔の絆を深める

元気だった、覚えてるよ!

東京お手玉の会は、5月につづいて10月23日、24日の両日、会員5人と友人3人の8人で、東北被災地の南三陸復興支援活動として、お手玉交流に出かけました。

前回は、入谷ひがし幼稚園・水戸部仮設住宅・戸倉仮設住宅集会所・平成の森仮設住宅・のぞみ福祉作業所を訪ねました。そのとき、「また来てくださいね」「待っていますよ」と話され、硬い握手を交わして5か月がたちました。

「寒くなる前にもう一度、南三陸のみなさんにお会いしたい」ということで、宮城大学南三陸復興支援センターの鈴木先生の支援を受けて、2回目のお手玉交流を実施しました。

メンバー8人は、2つのグループに分かれて、志津川中学校仮設住宅集会所・高校仮設住宅集会所・特別養護老人ホーム慈恵園・山の神平仮設住宅集会所の4か所を訪問しました。

交流場所でのお手玉遊びは、笑顔が見られ、みなさんとても楽しそうでしたが、じっくり話すことができなかったことが残念でした。

5月に訪ねた仮設住宅や福祉作業所では「元気だった?」と逆に声をかけられたり、幼稚園では子どもたちから「覚えてるよ!」と笑顔で話してくれたりしました。

仮設住宅のミシン工房では、元の仕事に復帰する人もいました。

戸倉仮設住宅では、おしゃべりに花が咲き、笑いがいっぱいでした。最後にみんなでお手玉送りをして再会を喜び合いました。外の景色は5か月前とほとんど変わりがなく、復興のむずかしさを感じました。

訪問先

志津川の高校仮設住宅集会所
さんざん館(宿舍)
志津川の中学仮設住宅集会所
水戸部の仮設住宅ミシン工房
山の神平仮設住宅集会所
特別養護老人ホーム慈恵園
入谷ひがし幼稚園
戸倉仮設住宅集会所
のぞみ福祉作業所
ホテル観洋
栗原宅:そばや「風庵」
工藤さん紙芝居

使用お手玉
550個
袋(大・小)
34袋

今回、みんなが持ち寄ったお手玉は1000個で、交流会を持ったところは8か所でした。お世話いただいた鈴木先生が、訪問後に次のようなメールをくださいました。「お手玉の魅力だけでなく、みなさんの接し方が受け入れられたのだと思います。これをご縁に何度でもおいでいただけるとうれしいです。」

あせらず、謙虚に、被災地のみなさんの気持ちに寄り添って、今

お手玉と慰問が被災地に笑顔を

会員のみなさんが、丹精込めて作ってくださったお手玉と、会員のみなさんのお手玉遊びの慰問が受け入れられ、東北の被災地で笑顔とぬくもりを譲っています。これからも、引き続きお手玉遊びをおして、心の絆を深め少しでも元気を取り戻して頂くことを願っています。

(編集部)

後もお手玉交流をつづけていきたいらと願っています。
(今回の参加者は、柴田綾子、中山順子、奥野ふみ、尾崎杏子、今野雅子、松本順子、佐藤ひろみ、尾櫃恵美のみなさん。)